

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 5 1 号 平成 2 8 年 1 2 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

更なる農用地の集積・集約化の推進を目指して！
～ 担い手農業者 6 組織と連携協定を締結～



連携協定締結式の様子

左から県農林水産部小野部長、東北農政局折原部長、農業法人協会高橋会長、指導農業士会白井会長、農業振興公社菅野理事長、青年農業士会伊東会長、認定農業者会小森会長、稲作経営者会議武田会長、果樹経営者研究会松浦会長

当公社（福島県農地中間管理機構）は、11月2日（水）に福島市において、県内6つの担い手農業者組織と、「農地中間管理事業による農用地の集積・集約化の促進に関する連携協定」を締結しました。

この連携協定は、農用地利用の効率化・高度化により、中核的担い手の農業経営の規模拡大及び安定化、さらには地域農業の維持・発展を図るため、公社と県内の担い手農業者組織である福島県指導農業士会、福島県青年

農業士会、うつくしまふくしま農業法人協会、福島県認定農業者会、福島県稲作経営者会議、福島県果樹経営者研究会が連携と協力を強化し、農地中間管理事業による農用地の集積・集約化を促進することを目的としています。

公社としては、この連携協定締結を契機として、より一層、農地中間管理事業の取組を強化し、互いに連携を深めることで、県内各地で本事業を活用した農用地の集積・集約が促進されることを期待しています。

先進地（埼玉県羽生市）の取組事例を研修

～平成28年度農地中間管理事業推進会議に県内から120名出席～

9月30日(金)、福島市パルセいいざかにおいて市町村やJA、県の担当者約120名の出席をいただき、農地中間管理事業推進会議を開催しました。

午前は、農地中間管理事業の事務手続きを再確認するため研修を行い、出席者からは、賃貸借の変更の手続きの簡素化に関する要望等が出されました。

午後は、先進地の事例研修として、埼玉県羽生市経済環境部の立花孝夫部長から、同市における農地中間管理事業の活用に関する講演をいただきました。基盤整備事業や企業参入と連携した具体的取組について報告があったほか、地域の主体性を引き出すこと、何か動くことが次への展開につながることに、市はセンサス等データにより地域への問題を投げかけながら地域と一緒に考えること、スピード感を持って対応すること、県や農地中間管理機構は市と同じ気持ちになって活動してもらうこと、など実践を踏まえた貴重な助言をいただきました。

続いて、情報提供として、県や公社から農地中

間管理事業の重点推進期間中(10月～12月)の取組を含めた事業の推進方策や関連事業の説明を行い、特に重点推進期間では、広報活動を重点的に実施することとし、県政テレビ広報の取組に加え、市町村やJA等の広報媒体への掲載等の協力をお願いしました。

今後、出し手向けの事業周知チラシを作成し、県内の水田農家を中心にダイレクトメール等により配布する予定です。今後も関係者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



平成28年度農地中間管理事業推進会議
(パルセいいざか(福島市))

[平成28年度農地中間管理事業の推進状況について]

平成28年度農地中間管理事業の推進状況については、皆様の協力を得て、取り組んだ結果、12月1日現在で借入880ha、転貸1,159haとなっております。

12～3月の冬期間は、平成29年作付けに向け農地の貸借等が動く時期でもあり、農用地の集積・集約化の一層の促進に向け、重点地区の推進活動、旧農地保有合理化事業終期到来者への農地中間管理事業の活用支援、個別マッチングの強化、新規就農予定者への推進等を積極的に行ってまいりますので、現地の農業者や関係機関・団体の皆様には、一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

農地中間管理事業の推進状況(H28.12.1現在) (単位: ha)

	平成28年度	参 考	
		平成26年度	平成27年度
借 入	880	1,041	2,292
転 貸	1,159	644	2,576

(注) 1 平成28年度は、4月1日～12月1日に権利が移動した面積です。

2 平成26年度と平成27年度は年度実績です。

いわき市に農業青年など284名が集結！

～「第47回東北農村青年会議福島大会」を開催～

11月1日(火)～2日(水)に東北農業青年クラブ連絡協議会と福島県農業青年クラブ連絡協議会の主催による「第47回東北農村青年会議福島大会」が、いわき市のスパリゾートハワイアンズとホテルハワイアンズで開催されました。

この会議は、東北の農業青年や関係者など284名が一堂に会し、日ごろの農業経営や農村生活で得た知識や技術を相互に交換し、東北農業の意欲ある担い手として経営のレベルアップを図ることを目的として開催されました。会議では1日目に東北6県の代表者による「プロジェクト発表と意見発表」を行い、2日目には南相馬市・いわき市における復興に向けた取組を体感する「復興体感バススクール」を行いました。また、県内高校生による「成果発表会」も開催されました。

「プロジェクト発表」では本県代表のあいづ農業青年クラブの貝沼隆一さんが「シクラメンのケイ酸



高橋孝仁大会会長(県連会長)あいさつ

カリの使用法の違いによる品質の改善について」というテーマで発表しました。「意見発表」では東白川4Hクラブの沼野将



福島県クラブ員の集合写真

美さんが「ねぎとアスパラと私」というテーマで農業を始めてからの出会いやこれからの目標について発表しました。残念ながら受賞は逃しましたが、自信に満ちた発表でした。また高校生の「成果発表会」では、磐城農業高等学校と小高商業高等学校が地元特産物の6次化商品開発についての取組を発表しました。さらに「復興体感バススクール」では、米の全量全袋検査や被災地域で地域活性化のために新たに水耕栽培施設を建設した農園などを視察研修し、復興に向けた取組を肌で感じることができました。

今回の福島大会は、参加者の皆さんそれぞれが東北地域の仲間との絆を深め合うことができ、大変有意義な大会となりました。

— 地域マネージャー便り —

農地中間管理事業ってなに？

福島県農地中間管理機構
両沼推進拠点

地域マネージャー いがらし たけお
五十嵐 竹男



農地中間管理事業ってなに？ あなたは誰？

農地中間管理事業が始まって3年目。農業者でこの事業名を全く知らない人は少なくなりましたが、内容を知る人はまだ多くないというのが私の実感です。

今年4月から地域マネージャーの肩書もらい、両沼拠点の地方駐在員として農家や町村役場、JAなどの機関団体を歩くこと8か月、日々事業内容の

説明をしてきました。そして事業を既に使った方からは良い点、悪い点を伺いました。地域の農業の将来方向については様々な意見がありますが、ほとんどの方の見通しが一致している点、それはあと数年後には農業現場で働く人が急激に減少するだろうとの見方です。

農業者の減少に対応すること、まさしくそれが農地中間管理事業の狙いであり、存在意義です。そしてその事業を知ってもらうこと、それが私ども地域マネージャーの仕事であると思っております。

農地中間管理事業ってなに？あなたは誰？是非声を掛けてください。

「地域の担い手として」 ～農地中間管理事業を活用した 稲作経営の規模拡大～

郡山市三穂田町富岡山寺地区
有限会社フロンティア代表取締役

こばやし よしまさ
小林 喜正さん



全を図ることとなりました。
地域の農地46haのうち54.5%の25.2haと、現在手続き中の近郊の農地を含め29.3haを農地中間管理事業を活用して集積し、稲

当地区は、郡山市中心地から南西に約16kmに位置し、地区戸数40戸の半数が非農家です。昭和53年に基盤整備を実施、土質は粘土混じりの農地が多く、水利は安積疏水を利用する、農家一戸当たり経営規模が約2haの水稲単作地帯です。

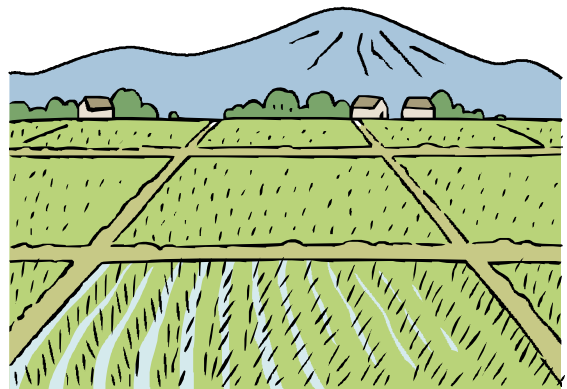
昭和61年に地元若者と富岡水稲生産組合を設立し、その翌年には山寺転作組合を設立しました。

その後、助成金の引下げ等があり、転作組合を解散しました。平成元年に水稲生産組合を法人化、「有限会社フロンティア」を設立し、現在は地区の中心経営体として、地元の若者も入社し、役員2名、社員（従業員）4名に農繁期にはパートなどを雇用して、稲作の経営と作業の受託などを行っています。

原発事故は農業経営を圧迫するとともに、離農や耕作放棄地化が加速し、集落全体が縮小気味になる中、平成26年に作成された「人・農地プラン」では、フロンティアが地域の担い手として位置付けられ、県中農林事務所、郡山市、農地中間管理機構の指導を受け、地区内農地の集積と、保

作経営の規模拡大を図ることができました。

今後農業者の減少が続く中で地域とフロンティアが一体となり、少しでも農業に興味のある地元の若者を積極的に社員（従業員）として迎え入れ、地域の農業後継者として育成に努めるとともに、農家・非農家を問わず高齢者や熟年の方で、自分の体力と時間に合わせできる作業で参加していただける就業環境創りなど、高齢化が進む当地区の維持活性化を図っていきたいと思っています。



編集後記

今年も残すところあと1か月となった。正月には、各地で様々な祭りや行事があると思うが、私の出身地の会津美里町でも「高田大俵引き」という行事がある。赤組と白組が大俵を引き合い、赤組が勝てば「商売繁盛」、白組が勝てば「豊作」の年になると言われている。昨年までは3年連続で「豊作」の年になると言われる白組が勝っていて、今年はこちらが勝つか楽しみである。正月に「大

俵引き」を見て元気を貰い、来年もまた1年間頑張りたい。

（荒川真美）

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8階
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>